

トピックス

ヒト対象ビタミン研究に関する研究自由集会の開催報告

Report of a Voluntary Meeting on the Clinical and Epidemiological Vitamin Research

基礎研究とヒト対象研究は車の両輪であると言われるが、ビタミン学会においては、優れた基礎研究者は多数いらっしゃるものの、ヒトを対象とするビタミン研究者は、基礎研究者と比べるとはるかに少ないことが、以前から気になっていた。ヒト対象研究活性化のために何かできないかと考えていて、栄養改善学会の研究自由集会のアイデアを使わせて頂こうと思いついた。

栄養改善学会には以前から研究自由集会という制度があり、ある特定のテーマに関心のある人が集まって議論する場である。同学会は毎年9月の金曜日から日曜日に開催され、研究自由集会は金曜日夕方に開かれる。名前の通りテーマは自由であり、3月頃に研究自由集会の公募が行われ、申請が認められれば、会場の使用が認められる。これにならって、ビタミン学会でも、ヒト対象のビタミン研究に関心をお持ちの方が、意見交換を行う場を提供したいと考えた。

前例のない企画であったが、ご相談申し上げたところ、松浦達也会長からは、理解のある温かいお言葉を賜り、白川仁大会長におかれては、プログラムに余裕のない中でご配慮頂き、機会を与えてくださった。また学会事務局もサポートしてくださり、学会ホームページやプログラムにおいて、こんな案内を掲載してくださった。

研究自由集会：臨床ビタミン学を語る会

(自由討論・情報交換)

ビタミンの臨床研究を進める上で、ぶつかる課題や必要となるサポート、また具体的事例について、様々な立場の方で自由にディスカッション等を行い、研究の推進に繋げる会

6月18日(日)午後で開催となったが、正直なところ、全くの新しい試みなので、誰も来られなかったらどうしようという不安があった。しかしふたを開けてみると、松浦会長をはじめ約25名の方がご参加くださった。

想定参加者は、「ヒト対象研究を行っている方」に限らず、「ヒト対象研究に関心のある方」であったが、その通り、ヒト対象研究者だけではなく、基礎研究者や企業の方など、多彩なメンバーがご出席くださった。

最初に趣旨説明の短いプレゼンを行ったあと、参加者から自己紹介に加えて、現在行われている研究や関心をお持ちの内容、今後行いたいと考えていることについて、ご発言頂いた。とてもすべてはご紹介できないが、何点か挙げさせて頂く。

1. ビタミンやミネラルに関して、日本人のヒトでの調査研究が不十分であり、そのようなデータを出す必要性は理解しているが、実行には困難を伴う。まずフィールドの確保が容易ではなく、また血液などの検体を用いて、種々の項目を測定するためには、かなりの研究費が必要となる。しかし個々の研究室で賄えるのはごくわずかであり、1研究室だけでは、限られたデータしか示すことができない。
2. 食事摂取基準に生かせるデータを構築するためにも、1つの大きなフィールドをそれぞれの専門家シェアし、結果として大きなデータが得られるような体制づくり(コンソーシアムのようなもの)を作っていく必要があるのではないかと。
3. ヒトでのデータに興味があって、研究してみたいと考えているが、フィールドを持っておらず、データを得ることができない(基礎研究者からのご発言)。
4. 何とかフィールドを確保できても、自前で生体指標の測定技術を持たない研究室では、外注に出すことになり、多額のコストがかかるし、外注できない項目も多い(ヒト対象研究者よりのご発言)。
5. このような課題を、うまくマッチングさせる仕組みが必要である。
6. 企業の最近の方針として、臨床研究をすぐに開始できる体制にはなく、観察研究を通じてある程度

の見通しが立った上で、プロジェクトを進める方向にあるので、そのきっかけとなるデータを是非構築してほしい。

ヒト対象の栄養学研究活性化のために重要なキーワードの一つが、横のつながりを持つことだと、以前から思っていたが、ご参加の皆様もやはり同じようなことをお考えであったと感じた。ヒト対象研究者同士、ヒト対象研究者と基礎研究者、大学の研究者と企業の研究者、このような横のつながりなしでは、ヒト対象研究を進めることは難しい。今回は全く新しい企画の第1回であり、具体的に何かが決まったというものではないが、横のつながりを持つ会を開いたこと自身に、一定の価値があったものと思っている。

今回はビタミン学会における研究自由集会であったが、ビタミンと密接に関連するミネラルとも連携する形での活動も必要ではないかと考えている。第70回日本栄養改善学会(2023年9月1日～3日:名古屋国際会議場)において、9月1日(金)に14の研究自由集会が開催されるが、そのうちの1つとして、上西一弘先生(女子栄養大学栄養学部栄養生理学研究室教授)を代表、榎原晶子先生(大阪公立大学生生活科学部教授)を事務局として、ビタミン・ミネラルに関する集会が開催予定である。なお会の名前は、ビタミン・ミネラルがエネルギー非産生栄養素であることによる。

研究自由集会7 エネルギーの無い人たちの会
ビタミン・ミネラルとヒトの健康に関する研究の現状と今後の方向性について
9月1日(金) 17:20～19:20 4号館3F 会議室436

健康の維持・増進、疾患予防というとエネルギー産生栄養素が注目される場所ですが、エネルギーを持たないビタミン・ミネラルは、わが国において不足が懸念される栄養素であり、この慢性的な不足は潜在的な疾患リスクとなります。日本では、ややインパクトの小さいビタミン・ミネラルですが、その要因には日本でのビタミン・ミネラルのヒト対象研究が少ないことがあります。本研究会では、ヒトを対象としたビタミン・ミネラル研究を行っている方々の研究紹介や今

後計画されている研究、また研究をやる中での困り事などを共有し、企業や行政など様々な立場の方との交流を通して、ビタミン・ミネラルのヒト研究の発展の場となることを目的に開催します。エネルギーの無い人たちの会、とありますが、エネルギーシユな方ももちろん大歓迎です!

今回の自由集会に対しては、参加者からも一定の評価が得られたと考えており、可能であれば、次回以降も開催できればと思っている。今回は参加しなかったが、関心はあるという方がいらっしゃったら、田中までご連絡頂ければ幸いです(kwutanaka@gmail.com)。

研究自由集会は、通常の講演やシンポジウムなどにはない、時間をかけてフリーディスカッションができるというメリットを持っている。こんなことを申し上げると、プログラム日程の厳しい大会長からお叱りを受けるかもしれないが、研究自由集会は、決してヒト対象研究だけのものではない。他のテーマに関しても関心を持っている方が集まって議論する仕組みとして有効ではないかと考えている。

最後に今回の自由集会開催にあたってお世話になった方々に御礼を申し上げる。松浦達也会長、白川仁大会長におかれては温かいご支援を賜り、学会事務局からも多大なるサポートを頂いた。ご多忙のところご出席くださった参加者の皆様にも、あつく御礼申し上げます。また運営に対しては、榎原晶子(大阪公立大学)、青未空(大阪樟蔭女子大学)両先生が、裏方としてご尽力くださった。

Key words :Clinical research, Collaboration, Matching, Research field, Voluntary meeting

Research Support Center, Shizuoka General Hospital
Kiyoshi Tanaka
静岡県立総合病院 リサーチサポートセンター
田中 清

利益相反自己申告: 申告すべきものなし

(2023.7.12 受付)